三鑛

發行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町5
電話3033番
炭電 528 475 番

編集兼発行人　平尚敏治
三鉱労組印刷工場

三鑛労組機関紙

戦争か平和か　危機孕む総改選

保守乱立で未曾有の激戦

政府は二十八日臨時閣議をひらいて國会解散の時期について協議したが、席上首相はとくに發言をもとめ諸般の事情から速やかに國会を解散して政局のあらたな安定を期すべきであると發言、廿八日國会解散、九月五日告示で十月一日総選挙を行う事を決定した。

愈々総選挙へのスタートを切った。これからの一ケ月全國にくりひろげられる選挙戦はおそらく戦後はじめての激戦が豫測される。今次のこの選挙の闘いは再軍備か、生活の安定かの争いであり、それはまた戦争か平和かの別れ目を画する争いとなる。

独立か隷属かの別れ目を画する争いとなる。すでに九月五日の告示を無視して各派は混亂のまゝ選挙戦ははじまった。國民の批判をおそれ世論にこびてさまざまな紛飾が行はれているが、この選挙で再軍備反對を主張し平和憲法の擁護を高々とかかげるものこそ正しくこの選挙を闘うものであり、國民とともに日本の平和と独立の基礎を築くことの出來る勢力である。

再軍備阻止の總選挙

今度の総選挙闘争の目標は、日本に反対出来る三分の一（一五〇名独立を阻み、アジアの平和を脅かそうとする勢力を倒すことにある自由党では総選挙の焦点を再軍備からそらせるためにできもしない減税だとか、債券などを唱えているが、総選挙の焦点は再軍備にあることは國内的にも國際的にも明らかな事実である。自由党は口では再軍備と憲法改正には反対だといつているが、どのように弁ようともきたるべき総選挙の結果構成される國会で保守党は憲法改正を提示してくることは必至で、再軍備阻止に一環して闘つて来た社会党左派に再軍備えの憲法改正の議席を最低確保させなければならぬ。

既に警察予備隊を昭和二十八年には三十万に増員しようという計画があるにもかゝわらず、今年四月の除隊希望者が出ていて応募もあるにもかゝわらず、今年四月の除隊希望者が出ていて応募も

誰が我々を代表したか

我々は過去において講和条約、安保条約の単独締結に反対して来たが自由党は勝手に植民地的条約を結び軍事基地を提供した。行政協定において地を犯した他国人も國内法で取締りが出来兼ねる状態をつくった。又労働者、学生、学者、國民大衆が反対した破防法労働法改悪も絶対多数で押切ったのも自由党である。その他国民大衆を予備隊を軍隊でないとギマンしている様に國民をギマンし不利益になる様な法律を次々につくつたのは何党で誰であるか我々はよく知らねばならぬ。口では民主々義を唱へ如何にも代弁者の様な顔をして選挙時だけ帰つてくるが一記の表によつて判定されたい。

福岡第三區の展望

荒尾の市長選挙で選挙戦に自信を掴んだ三鉱労組いち早く革新陣営の中から社会党左派を選び田中稔氏を指名し期せずして大地評で意思久留米市山川出身の豊福保次氏を福岡三区の候補者として推薦することに決定、寺崎覚氏と由党だけで六名、中央でモヤ〜のあるよう、地方でも起るのは当然である。

社会黨左派

社會黨右派

農　連

改進黨

自由黨

共産黨

社会黨左派

共産黨

自由黨

無所属

有權者總數

久留米市	四九、四三六人
大牟田市	九一、三六二人
浮羽	三六、八八〇人
三井	四六、三六九人
三づま	六六、七三二人
八女	八二、九三二人
柳河山門	五五、八五九人
三池	九、七六九人
計	四三九、三三九人

熊本第一區の展望

長期ストト止むなし

中闘、決意を固む

賃金切下げを逆提示

交渉前途に暗澹たる雲行

不遜な連盟の回答

日経連と大学

眞理の友

書記局便り

八月三十日　選対政宣合同会議
阿具根組合長北海道より帰山
九月　一日　北岡政宣部長東京より帰山
九月　三日　婦人代表者会議
県総評々議員会

前進

われわれは何故この人を選ぶか

公選法
選挙
總約鑑

来る総選挙が何を國民に訴えているかということは前に本欄で指摘しておいた処である。いまや各政党とも公約の發出と選挙スローガンの展示に懸しい。どれもこれも楽晴らしく結構づくめで、目うつりがしてかなわぬが、さて「本当かな」と首を傾けたくなるのもまた偽らぬ心理であろう。この目白押しに並んだおびたゞしい公約の中からその真偽を鑑別する方法は何か。それはたゞ一つ、「再軍備」に就てその政党がどの線に考えているか—これだけを知れば足りるのだ。あとはアクセサリー的な意味しかもつていない。それを再軍備といおうが自衛軍といおうが言葉のあやはどうであろうと事態に変りはない。

この「再軍備」という方向指標を使用することによつて、われ〜は政の所在を正しく捕捉することができる。この投光器の前にいう処の「平和」「独立」「自由」が真物かまがい物かその正体が映し出されるであろう。いう処の外交、財政、経済、労働、厚生の諸政策が果して可能であるか否かの鑑別かつくというものである。

【再軍備は日本のため日本人民の意思に基いたものではない】

欧洲防衛軍設置、西独再軍備がアメリカのいわゆる「ソ連封じ込め」政策のためであることはいま誰一人知らぬ者はない。日本再軍備がアメリカの構想する太平洋防衛体制の一環であることも事実である。「日本は極東において戦略的に重要な地位を占めており…太平洋におけるアメリカの防衛線上に位置している」「安全条約はアメリカ合衆国に対して何らの拘束も義務も課しているものではない。われ〜はそうすると決定しない限り、日本に何なる兵力も駐屯させる義務を負つていない」これに反しこの条約によつて日本からの与えられた諸権利は非常に広汎なものである」アメリカ上院外交委員会は報告している。「これは（駐兵権）権利であつて義務ではない。われ〜はわれ〜が欲する以上の長きにわたつて日本に軍隊を駐屯する何らの義務を負つていない！」ナリー議員は挙証に述べている。再軍備問題方は日本の自立軍備が出来上るまでは駐屯していたゞく等と思のよいことをお考えたが、それは「先憂の御都合次第」ということを御存じない。また自国に賄つてもらう方がそれだけ安上りだ（防衛関係予算は国費の二一%）日本再軍備に期待されているものが何であるか、これでは傭兵的再軍備といわれても致し方あるまい。

【再軍備で日本の獨立は守れない】

逆説めくが事実は曲げられない。再軍備は「外」からの要請であつた。この要請に応ならんとする限り自主独立は失われていく。岡崎外交が「その都度外交」と皮肉られる事実。国府意識は、誰の意思だつたか—「国府選択は強要したのではないか」との上院における世界、自由諸国へ仲間入りしていることは奇妙にも何と不自由なことではないか。（続）

秋を捉へる

わく雲。
崩れる雲。
秋九月の空
しきりに動く。

裏の裏鳴らす風、
曇うでく空が孕む、
なまなましい暗示。
大きく廻転しようと、
始動する　時。
あの雲雲のうへに、
秋の空はある。

（小浜社宅附近にて撮す）

韓國で徴兵實施

韓国政府は一日から兵役法による徴兵を実施した。満二十歳から廿二歳までを現役兵として召集、廿三歳から廿七歳までの青年は第二国民兵として召集されることとなつた。韓国軍は朝鮮戦乱以来満十七歳から四十一歳までの男子を一せいに登録、片端から第二国民兵として召集して来たのをこれからは現役兵を中心とすることに改まつたものである

【日本の予備隊が新国軍になり徴兵にならぬとも限らぬ】

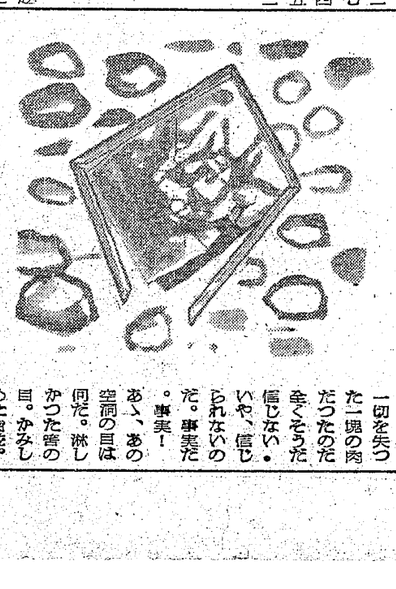
英水兵事件

一日のデイリー・ニュースは英水兵事件に関する日本の対英回答は「不満足」なものだとつぎの様に強硬態度が必要であると論じている。日本の対英回答は言いのがれでありきわめて非協力的なものである。これは前非を悔いない今日の日本人の態度を反映している。旧敵国たる日本の目をさますためには英国がもつと強硬な手段をとることが必要である。【植民地的講和条約といはれてもしかたがない】

在欧米兵に夜間外出禁止令

在欧米軍支局は廿九日欧州各地の米軍下士官兵にたいし夜半十二時から翌朝六時まで（土曜日および休日の前日は午前一時から六時まで）の外出を禁止した。この措置は新しく設置された米在欧陸軍、在独米海軍、第十二空軍の全下士官兵に適用されるが、これは各種の事件で最近月平均約二十名の米将兵が死亡しているためと見られる。また米将兵に対する欧州各国新聞の強い批難が今回の措置の有力な原因になつているもようである。【日本の佐世保もこの様にしたらと思はれる】

脱皮（二）

組合千一夜（第五十七話）

上野信幸作
久慈悠一畫